

おけばんばの担当さん



田村 大輔 (たむら だいすけ)

札幌市出身。大学卒業後に東京のデザイン事務所に就職。2008年から2011年までユーラシア大陸横断バックパッカーを決行、沖縄～ポルトガルまで、22か国を陸路にて横断。2015年よりタイのバンコクにて日系企業に勤務。2020年にコロナが世界的にまん延を機に海外での生活を終え帰国。現在は置戸町観光協会地域おこし協力隊として置戸町に在籍。

【SNS (Twitter) を活用した広報をやりたい】

その私の目標をやらせてもらっているのが、この置戸町ということになります。

もともと私は北海道生まれの道産子で、上京後に東京のデザイン会社に就職したのですが不況で会社が傾きそのあおりにて解雇。その後、子どもの頃からの夢であったユーラシア大陸横断バックパッカー旅行を行い2011年に帰国、前職の先輩からの紹介で再就職の予定が3.11で話自体が無くなり印刷会社での契約社員に。そして契約満了を機に海外での生活に興味が出てしまい5年ほどタイのバンコクで仕事をしていたので

すが、今度はコロナで帰国を決意という、自分でも不思議なキャリアだと思っております。

ただそんな浮草のようなキャリアでも、自分の中でそれなりに自信があったのがバックパッカー時代に作成したTwitterでのアカウント運用でした。個人アカウントとしてはそれなりのフォロワー数を持ち、またそれでありながら炎上も一度もせず、定期的に数万単位の話題を提供できていた私は、このノウハウをなにか生かす事ができないかと考えており、そんな中で求職情報として『SNSでの情報発信』が求める人材条件に入っていたのが置戸町の地域おこし協力隊だったという訳です。今にして思えば置戸町さんがもともと欲しかった人材は『置戸町観光協会の事務局員』であり、SNSを使った広報活動は求人情報に書いてはあったものの、そこまで求められていなかったのかもしれないのですが、現在私がその活動を核に地域おこし協力隊として活動させてもらっている事から考えても、置戸町の地域おこし協力隊を選んでよかったと今更ながらしみじみと感じているところです。

さて、北海道の地域おこし協力隊として活動している恐らくほとんどの方が直面する問題、それは『他の市町村と差別化できる万人受けするコンテンツが少ない』ということでしょう。例えばどの市町村にもだいたい『豊かな自然』『美味しい食べ物』『温泉』などは持っているカードであり、それ以外の、例えば道東であれば『流水』や『大湿原』などのような唯一無二のカードが無いという問題があります。

しかしながら私は置戸町に来てから気が付いたのですが、その『他の市町村と差別化できる万人受けするコンテンツが少ない』というのは裏を返せば『万人受けはしないかもしれない必要があるコンテンツならある』であり、そのようなコンテンツであれば置戸町にも、そして恐らくどの市町村でもあるのではないかと思うのです。そしてそんな『コアな、点としてしか存在していないコンテンツ』をどうにか外に、数多くの人の目にとめることができれば、それはその土地の新しい価値を産めるのではないか、そのために必要なのは何かと考えた先に、SNSでの発信の必要性がある

のだと思うのです。ただ問題なのが、単純にそのような情報を流すだけのアカウントでは、あまり人が見てくれないということです。そこで私が協力をお願いしたのが置戸町内のいたるところで目にする、置戸町



おけばんばくん

100周年記念でお目見えしたこの町の地域キャラクター『おけばんばくん』。彼は他のゆるキャラに比べてもかなりちゃんと、正統派なかわいらしさがあり、私は彼にTwitterのアカウントの運用をお願いしました。

【コンセプトは『ゆるっとのんびりカワイイ』】

必要以上に耳目を集めるような過激な事をせずのんびりと、基本的週5日間で毎日朝昼の気温と共につぶやきをベースに、置戸町のちょっとしたイベントや四季の移ろい、そしてその時々、ただただキレイな自然の風景をおけばんばくんが楽しむ姿をつぶやく形での運用をお願いし、もちろん彼のサポートとして私も、先に述べたようなTwitterのアカウント運用ノウハウを合わせて運用をお願いしたところ、じわじわと彼のファンの方が増えていきました。

現在ではフォロワー数が町民数を超え、一カ月のインプレッション数（PV数のようなもの）が30万以上を達成し、おけばんばくんを通じた置戸町のPRの下地ができてきたように思えます。

そして現在先に述べたような『コアなコンテンツ』に関しては、同じくこの地域おこし協力隊の仲間が作り上げていっている真っ最中であり、今後の置戸町のコンテンツ発信に期待をしていただければと考えているところです。



おけばんばくんのキャラクターグッズ

また並行して私が携わらせていただいているのが、おけばんばくんグッズも含めた新しい特産品の開発と販売。こちらはもともと公民館の事業である食の町づくりというプロジェクトであり、「日本一」と呼ばれる北海道置戸町の給食をつくり上げた管理栄養士・佐々木十美さんを筆頭とした事業だったのですが、観光協会側のスタッフとして私も参加させていただき、まずは第一弾である置戸町のヤーコンを使った新商品『おけばんばくんうどん』の開発が完了。そこからは私が観光協会側として発注や在庫管理、営業などを担当し、約半年でそれなりに形になってきたところに加え、こちらは私主体で作りに上げた『おけばんばくんぬいぐるみ』も今年の1月に完成。こちらも売上げがかなり好調であり、更なるグッズ開発などにも力を入れていければと考えております。

またやっとコロナが落ち着いてきた頃に、小樽の『小樽市応援キャラクター コギ坊』にお誘いを受け、おけばんばくんとしては久しぶりに町外のイベントに参加させていただきました。他の参加メンバーであった『ジンギスカンのジンくん』や『小樽うんがっばくん』などのキャラとコラボすることで、PRの力もまざまざと感じたり、また、町外のおけばんばくんのファンの方ともふれあうことで、担当である私も改めておけばんばくんの魅力を感じました。今後はもっと積極的に町外のイベント出演も視野に入れつつ、もっともっとおけばんばくんの魅力を外に伝え、更におけばんばくんを通じた形で、置戸町の魅力を伝えていくことができれば、地域おこし協力隊としての役割は果たせるのではないかと考えております。

ともあれ、私の任期もあと一年と8カ月ほど。これからもおけばんばくんと共に町内外を歩き回り、皆さんにご愛顧いただけるキャラクターになればと心から願っております。

皆様もよろしければ、QRコードから彼のTwitterのアカウントをフォローしていただければ彼はとても喜ぶと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。



QRコード